



# ちがさき丸ごと博物館



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)

## 特集・下寺尾遺跡群



▲古代の高座郡衙とその周辺の景観復元イラスト（構成：田尾誠敏、イラスト：霜出彩野）

「東の吉野ヶ里」?とも評され、今、話題となっている「下寺尾遺跡群」。

貴重な遺跡群ですが、まだ史跡指定されていないため、ご存知ない方も多いかと思えます。

また、下寺尾地区には、古代だけでなく、太古からの歴史の足跡を残す史跡や地形が多く残っています。

遺跡群にくわえ、民話や自然などの都市資源について紹介します。

※律令制度のもと、各郡単位でおかれた役所を「郡家(ぐうけ)」「郡衙(ぐんが)」と呼びます。

## 伝説は真実だった！ 下寺尾の七堂伽藍跡と郡衙

下寺尾の県立茅ヶ崎北陵高校南側に広がる畑地では、古くから大きな石がたくさんあることが知られ、江戸時代の記録にも平安時代以前(古代)に大きなお寺(七堂伽藍)があったことが記されています。昭和53年には考古学者の岡本勇さんによる発掘調査が行われ、多くの古代瓦など寺院ならではの遺物が発見されるなど、伝説が真実だったことを裏付けました。

その後も市の文化財保護担当により着々と確認調査が進められ、約80m四方の大きさの範囲に主要な建物が配置された関東でも古い段階のお寺であることがわかってきました。

平成14年には茅ヶ崎北陵高校のグラウンドで7世紀後半から8世紀前半にかけて営まれた高座郡の郡役所(高座郡衙)が発見され、役所と寺院が一体となった相模国高座郡の中心がこの地にあったことが明らかになりました。

今はこれらの建物の柱穴などが学校や畑の下に埋もれていますが、このような遺跡がほぼそのまま残っている例は全国的にも少なく非常に貴重であることから、現状を保護し公開・活用がなされるよう、国史跡指定を目指した取り組みが進められています。



▲寺院に関連する出土遺物  
(左上：二彩陶器、右上：鬼瓦、  
左下：香炉、右下：銅匙)

## もっと知りたい

### 「下寺尾遺跡群」

非常に珍しい役所と寺院の遺跡は、多くの研究者からも注目されています。下寺尾遺跡群を学びたい方から「よくある質問」にお答えします。

#### Q.下寺尾遺跡群にはいくつ遺跡がありますか？

##### A. 現在、7つの遺跡が発見されています。

下寺尾遺跡群は、高座丘陵南端部とその南側の砂丘地に位置し、高座郡衙、七堂伽藍跡のほか、船着場や祭祀遺跡などが関連する遺跡が7つ発見されています。

(※下寺尾遺跡群の7遺跡：西方A・B・C遺跡、七堂伽藍跡、北B遺跡、寒川町岡田南河内遺跡・寒川町大曲五反田遺跡)



▲七堂伽藍跡の碑（香川駅から徒歩15分）

#### Q.「高座郡衙」ってどう読むのですか？

##### A. 「たかくらぐんが」と読みます。

平安時代の百科事典である『和名抄（わみょうしょう）』に「太加久良」と記されていることから、当時の人々が高座を「たかくら」と呼んでいたことがわかっています。

相模国には、足柄上（あしがらのかみ）郡、足柄下（あしがらのしも）郡、余綾（よろぎ）郡、大住（おおすみ）郡、愛甲（あゆかわ）郡、高座（たかくら）郡、御浦（みうら）郡、鎌倉（かまくら）郡の8郡があり、この中でも高座郡はその位置や大きさなどから相模国の中心的な郡であったと推定されます。

下寺尾は、郡の役所（郡衙）としては、古い段階に造営されたと考えられます。

#### 下寺尾の都市資源紹介 「人物」

### 鶴田栄太郎 氏（1888～1968）

下寺尾遺跡群の一面にある「七堂伽藍跡の碑」建立の中心となったのが、鶴田栄太郎氏です。

彼は茅ヶ崎生まれの郷土史研究家で、一生を茅ヶ崎の史跡発掘、研究、紹介活動に尽くしました。伝説の七堂伽藍については、本当なのかどうかや時代考証などで多くの議論があり、結論は将来の『研究』にゆだねられました。

彼は、この「七堂伽藍」研究を機に、西久保宝生寺の阿弥陀三尊像の発見、東海道一里塚、懐島の碑など数々の句碑の建立、大岡祭の開始など茅ヶ崎の文化財保護活動をはじめ、郷土史小冊子「あしかび叢書」を創刊し、郷土史雑誌「武相文化」などにも積極的に投稿し、茅ヶ崎の史跡・文化財を精力的に紹介し続けました。1968年10月20日、講演を終えた後、「これで今日の講座を終わります」と言い終えるや、隣の人に倒れかかり絶命したといういきさつは、終生の研究者を象徴しています。

近年「古代寺院（七堂伽藍跡）」の存在が証明され、国の史跡になるにあたり、草むす「碑」のそばに立ち、大いに喜んでおられることでしょう。こんなに素晴らしい宝を探究し伝えてくださった鶴田栄太郎氏に、茅ヶ崎市民として深く感謝いたします。（増田・富永）

#### 下寺尾の都市資源紹介 「民話」

### 民話 【七堂伽藍】



昔、下寺尾に大きな寺がありました。火事で焼けて今はありません。この火事は住職の尼さんの比丘尼が、南湖の漁師の苦情に耐えかねて寺を焼いたというお話です。

今から八百年ほど昔、現在の茅ヶ崎北陵高校の南の所に、海円院というお寺がありました。大きな規模ですので近在の人々は七堂伽藍とも呼んでいました。比丘尼は、30歳そこそこで、美しく聡明で気立てがよく、近郷の村人にたいへん慕われていました。比丘尼は空腹で倒れていた乞食の助三の看護をして、寺にしばらく住ませていました。

お寺の灯明の灯りのせいで魚が取れないという漁師の苦情に思い悩む比丘尼に、助三は心を痛め、本堂を焼いて姿を消しました。海円院の火事後、南湖の海ではもともとおり豊漁が続くようになりました。

身代わりになって役人に捕らえられた比丘尼は、詮議を受け、処刑されたとのこと。

「茅ヶ崎の民話劇 第一集」 編集 茅ヶ崎民話の会（要約 川合）



## Q. もっと下寺尾遺跡群について知りたいのですが？

### A. 7月15日（日）・16日（月・祝）にシンポジウムがあります。

もっと深く下寺尾遺跡群について知りたい方、学びたい方には、2日間連続でシンポジウム『下寺尾官衙遺跡を考える～相模国高座郡衙・下寺尾七堂伽藍跡の調査成果と保存活用～』が開催されます。

30年以上にわたる遺跡調査成果の報告から、「古代相模国高座郡について」「七堂伽藍跡の主要建物について」等の専門家による講演、講演者をパネリストとしたシンポジウムという、下寺尾遺跡群を知り尽くす内容となっています。

詳しい内容等は、ホームページをごらんください。

[http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/bunka\\_rekishi/9835/026816.html](http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/bunka_rekishi/9835/026816.html)

#### 【開催日】

第1日：平成24年7月15日（日）

12時45分から17時まで

（開場12時15分）

・基調報告等

第2日：平成24年7月16日（月・祝）

9時30分から17時30分まで

（開場9時）

・記念講演、シンポジウム等

【会場】茅ヶ崎市役所分庁舎6階コミュニティホール

【定員】各日200名（申込み不要、先着順）

【お問合せ先】茅ヶ崎市教育委員会社会教育課

TEL 0467(82)1111



▲平成22年度の遺跡見学会の様子

（※現在は埋め戻されて、遺跡を見ることはできません。）

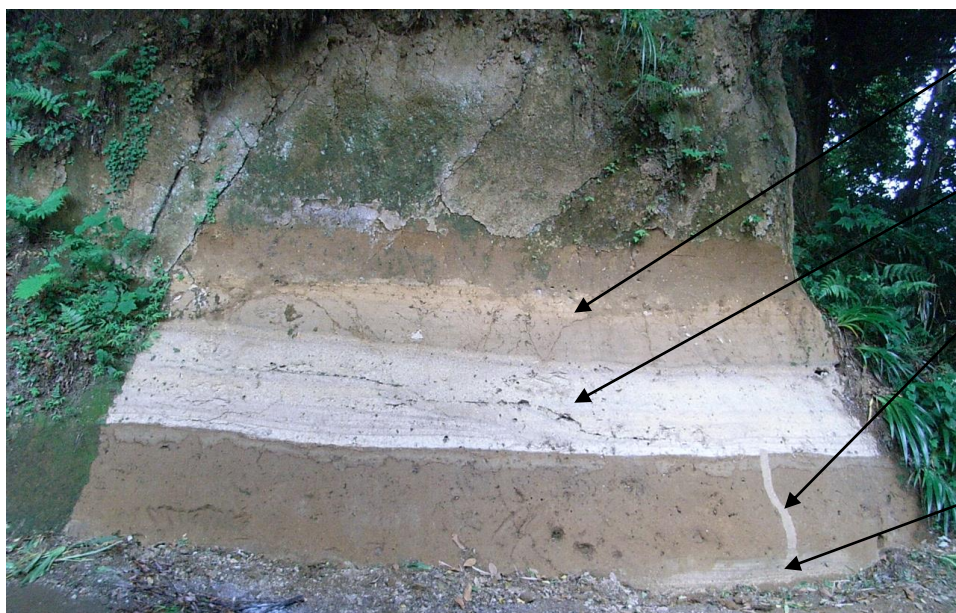
#### 下寺尾の都市資源紹介「自然」

### 駒寄川中流域の約6万年前の火山灰層

茅ヶ崎北部は関東ローム層が堆積する丘陵で、高い尾根で50m余りあります。この丘陵裾の椎の木坂の坂下（大岡越前通りから建彦神社に入るところ）に、今から約6万年前の東京軽石層（約60cm）と、その下に三浦軽石層（約15cm）が富士火山灰層の間に堆積しています。また、この崖は地震による液状化現象で下層の三浦軽石層から富士火山灰層を突き抜けて東京軽石層に噴き出したパミスダイク（軽石の液状化）を観察できるところです。

茅ヶ崎市の貴重なジオパーク（地質遺産）の一つです

「駒寄川 流域の自然と文化」 発行 駒寄川水と緑と風の会（要約 川合）



富士火山灰層

東京軽石層

約60cm

（箱根火山噴出物）

富士火山灰層の下の三浦軽石層が東京軽石層まで液状化現象で噴きあげている。

三浦軽石層

約15cm

（箱根火山噴出物）

▲椎の木坂の地層 約6万年前 写真提供 岩本和代氏

## ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト始動

ちがさき丸ごと博物館事業は、今年度で9年目の取り組みに入ります。

「ちがさき丸ごと博物館事業の指針」に基づき、都市資源に関する説明板の設置や、ガイド養成講座を通じた人材の育成、今、お読みいただいている季刊誌の発行事業等、茅ヶ崎の都市資源を紹介するさまざまな取り組みを進めてきました。

「ちがさき丸ごと博物館」が目指すのは、活動を通して、茅ヶ崎にふるさとの愛着を持つ市民が増えていき、市民ひとりひとりがまちに誇りを持った「学芸員」となることです。

そのためには、「ちがさき丸ごと博物館」のことを、もっとたくさんの市民の皆さんに知っていただき、参加していただく必要があります。そこで、活動の輪をより広げていくため、「ちがさき丸ごと博物館アクションプロジェクト」を立ち上げました。

ガイド養成講座修了生による「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会」をはじめとする市民と行政が協働し、それぞれの愛するものや得意分野を生かして、多くの市民の皆さんが茅ヶ崎の都市資源を「知り」「気づき」「ふれあう」機会をつくって、茅ヶ崎を愛する仲間の輪を広げていこうというものです。

5月30日にキックオフしたアクションプロジェクト。11月末からは、「企画展」と題した事業も展開予定ですので、どうぞお楽しみに。



▲5月30日キックオフ会議の様子

## ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会

## (略称：丸ごと博物館の会)の活動

## ■新体制について

5月12日に開催された丸ごと博物館の会第5回総会において、以下の新役員体制で推進することとなりました。今後ともよろしくお願ひします。

{新役員} 会長：加藤幹雄（事務局長兼務） 会計：川合重貞 監査：鈴木國臣  
{前役員} 会長：高橋正純 事務局長：加藤幹雄 会計：尾坂郭子 監査：鈴木國臣

## ■行事・活動予定について

- ・大山街道プロジェクト協力活動（ガイド、講演会ほか）
- ・文教大学の韓国人留学生への市内観光ガイド（8月）

\*「丸ごと博物館の会」はボランティア団体として「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業」推進を市教育委員会社会教育課と協働し、支援活動を行っています。

## ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、このまちらしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、本市を改めて知り、本市を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかけがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくこととなります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

## 編集後記

取材や原稿執筆等、季刊誌の編集作業を通して、茅ヶ崎のさまざまな都市資源について知るほど、茅ヶ崎というまちには、いくつも興味深い「発見」があり、自分自身とのつながりに気づくことができます。季刊誌づくりに参加してみたい方は、市教育委員会社会教育課まで気軽にお問い合わせください。そこに「発見」があります。